

専門部会報告シート

部会名	相談・くらしの部会		報告回	令和6年度第2回全体会
委員 氏名		氏名	選出母体及び役職等	
	1	◎田中 研二	府中市社会福祉協議会 地域福祉部地域活動推進課 長補佐兼権利擁護課長補佐	
	2	○枕島 剛之	障害当事者	
	3	中川 さゆり	地域生活支援センタープラザ 施設長	
	4	原 郷史	地域生活支援センターふらっと センター長	
	5	麻生 千恵美	デイケアステーションカルテット 代表	
	6	藤田 亜弥	ケアチーム大芽 施設長	
	7	中村 弘子	府中市パーキンソン病友の会	
	8	高橋 史	府中市肢体不自由児者父母の会 会長	
	9	中村 嘉人	東京都立府中けやきの森学園 主任教諭	
	※部会長は◎、副部会長は○			
現状	府中市では、令和3年度より地域生活支援拠点等が整備されているが、前期に引き続き、整備の進行状況や実際の運用状況の把握・検証をしていく必要がある。また、地域課題の抽出及び解決に向けて協議される場として機能を高めていく必要がある。			
検討 テーマ (概要)	「当事者の方がいつまでも地域で暮らしていけること」を検討テーマとし、令和5年度では、地域における障害のある方のニーズの把握、課題の整理を行い、6年度は、そのニーズに応えるためには、何が必要かを明確にし、部会としての答申にまとめる。			
取組 経過	<p>【令和6年度の取組】</p> <p>・令和5年度に行った、重症心身障害のある当事者に向けたアンケートの結果から、多くの当事者（家族）は自宅や施設等、地域で暮らすことを望んでいる。</p> <p>また自由記載においては、入所施設の少なさや両親の高齢化を理由に、漠然とした将来への不安が見て取れた。そうした結果から、府中市でも障害当事者の方の選択肢を増やす意味からも、住み慣れた地域に施設等を整備する必要があるのではないか、との結果が見られ、近隣の26市（他市25市＋府中市）への施設設置状況調査を行い、参考とすることとした。</p> <p>・他市の調査結果より、施設建設を積極的に行っている2市にオンラインでのヒヤリングを3月27日に実施。</p> <p>・直近（令和5年10月）に、身体障害の方を対象としたグループホームを開所した1市に4月18日に見学と、法人、市担当者からの聞き取りを行った。</p> <p>・府中市内にも重度心身障害者を対象としたグループホームが1か所あるが、なぜ他に増えていかないのか、建設や運営に課題があるのか、などを中心に施設側に調査を行った。</p> <p>・他市の状況と、府中市内施設の状況を並べ、比較することで施設増加のための課題と、解決に向けた方法を明らかにし、その結果について今年度中にまとめる答申にて提言する。</p>			

検討
結果

【樹林の家訪問をふまえた第3回部会での検討結果】

1 9/11 樹林の家訪問の振り返り

(1) 施設職員へのインタビュー

- ア 長い間グループホームのための土地を探していた。ようやく理解のあるオーナーと出会い、オーナーに建物を建ててもらい、家賃を支払っている。
- イ 身体障害の方で女性5名、男性5名。一部屋6畳程度で室内はエアコンも含め、すべて本人がそろえる。
- ウ 職員体制は同性介護を徹底し、夜勤は女性2名、男性2名と手厚くしている。食事は調理専門の職員がいて、様々な食事形態にも対応している。
- エ 日中は通所し、土日は実家に帰る方もいるし、親御さんが高齢のため、帰れない方もいる。本人の家はグループホームなので、実家にヘルパーさんを派遣することはできない。土日は全員が帰る予定で予算を組んだので、想定以上に人件費がかかっている。
- オ 経営は赤字だが、他の事業で補填しているような状況。今年の報酬改定で加算がついたので多少改善されている。

(2) 施設訪問をふまえての感想と意見

- ア 木造平屋建ての温かい雰囲気。
- イ グループホーム開設にはヒト（障害福祉に理解のある市民）、モノ（土地）、カネ（経済的支援）すべての条件が揃わないと難しい。
- ウ 施設建設にはグループホームに限らず、小規模の入所施設の選択肢もある。
- エ 障害の程度の面で重度の身体障害ばかりだと、手厚い人員配置が必要とされ、人件費により経営面では困難が生じる。
- オ 知的・身体・精神などミックスすることで経営上、効率が良い。
- カ 全てが揃っている施設のなかで生活が完結すると、収容施設のイメージになってしまうので、入所施設と地域のつながりがある環境が理想。
- キ 親と一緒に入所する介護付きアパート、特養で重症心身障害児者も受入、既存の建物を利用するなど、選択肢はたくさんあった方が良い。
- ク 住み慣れた場所で暮らしたい理由には、当事者とそれを取り巻く支援者で築き上げたチームの存在もある。移転したらまたチームが変わってしまう。
- ケ 動ける重心や歩ける医療的ケア児は使える資源がない。
- コ 市がこんな土地があるなど発信して、手を挙げる法人を募る。
- サ N市社協では親亡き後も自宅で暮らせるような支援があり、旗を振る人がいれば大きく動く。
- シ 親亡き後だからこそ、最期をどう迎えるか、ご本人と保護者の気持ちを大事にしてご希望通りの施設はどこがよいのか考えられることが理想。

2 答申書作成にあたり

- (1) 昨年度のアンケート結果のとおり、住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けるうえで不足している要因、現状を答申書に反映させていく。
- (2) 単なる選択肢の羅列ではなく、優先順位を立てて、特定の要素に対しての提言を盛り込むことが、市障害者計画への反映につながるのではないかな。
- (3) 施設、グループホーム、自宅の選択肢があるが、現状はこうである。～が

	<p>望ましいとまとめるのはどうか。</p> <p>3 8/26 東京都自立支援協議会交流会の振り返り</p> <p>参加者による共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会への当事者参画の必要性を感じた。 ・支援者が決めつけずに課題を抽出していくことが重要と思われた。 <p>4 今後の部会の流れ</p> <p>10月下旬に4回目、11月に5回目、12月に6回目、令和7年1月下旬に全体会（最終）を実施。第3回部会終了時点の検討結果をふまえ、部会長において答申案（骨子）のたたき台を作成し、第4回開催時に委員にて内容を整理する。</p>		
会議開催状況と内容		日程	内容
	第1回	4月18日	・H市グループホーム見学と法人、市役所からの聞き取り
	第2回	5月31日	・3市の調査結果のまとめ ・今後の方向性について
	臨時回	9月11日	・グループホームあけぼの樹林の家視察
	第3回	9月18日	・グループホームあけぼの樹林の家視察の振り返り ・答申案作成について ・東京都自立支援協議会交流会参加報告
	第4回	10月21日	答申案（骨子）の整理及び検討
	第5回	11月中	答申案の整理及び検討
	第6回	12月中	答申内容の確定